いたばしさんぽで み〜つけた！

知っていますか？板橋区内には、SDGsにつながる取組がたくさんあります。
その中でも、様々な人が協力して、複数のSDGsの目標の達成につながる取組を紹介します。

右側を開いてみよう ▶

ボードゲーム「いたばしさんぽ」で遊んでみよう！

中面を開いて、ゲームを遊んでみよう！板橋のまちの中を散歩しながら、まちのこと、SDGsのことについて一緒に考えよう。

◀ 中面を開いてみよう

2024年3月発行
発行：板橋区 政策経営部
ブランド戦略担当課
〒173-8501
東京都板橋区板橋二丁目66番1号
TEL：03-3579-2515
メール：sk-promo@city.itabashi.tokyo.jp
制・編：三清太郎
デザイン：株式会社 10　監修：高木超
協力：板橋区立美術館・板橋区立緑小学校
企画・編集：株式会社 石塚計画デザイン事務所
協賛：用紙提供：リンテック株式会社

ゲームやリーフレットに関する詳細はこちら ▶

本用子は、用紙・印刷・加工の全工程で、適切に管理された森林から得た木材パルプを使用していることを示す、FSC®森林認証品です。用紙は、区内企業リンテック(株)が開発した「ニューージュCoC」をご提供いただきました。リンテック(株)は、障がいがある方々を対象としたプロ野球観戦への無料招待をはじめとした社会貢献活動や、サステナブルな社会の実現に向けた活動や製品開発を積極的に行っています。

ミックス
紙｜責任ある森林管理を支えています
FSC® C014687

石油系溶剤を含まない(non-VOC)インキを使用しています

都市農業と有機物で地域をつなぐ

THE HASUNE FARM

都営三田線蓮根駅から歩いて8分ほどの場所、戸建てや低層の住宅が続く景色のなかに、ぽっかりと広い空が見える場所がありました。有機栽培農園 THE HASUNE FARMです。

ほかのまちから有機野菜を求めて買いにくるお客さんもいるんですよ。

農場長
富永加さん

▲ 近隣の保育施設への収穫体験は大人気！

都市農業の最大の魅力は日常の中に「農」があるということ。

まちの中に農地があること自体、東京では珍しいです。収穫体験は郊外で楽しむもの、野菜は遠くから届くものと思われがちです。でも近くに農地があれば、採れたてで新鮮な野菜が食べられます。移動や輸送に時間やエネルギーを使わなくてすみます。

都市農業の可能性は無限大。減っていく現状をなんとかしたい。

都市農業のニーズが高まり続けていると感じる一方で、都市で農地を維持するのはすごく大変です。

世の中に都市農地を残すために、今ある農地をみんなで応援して守っていく必要があると思います。

▲ メニュー表の葉物野菜は注文後に収穫しています。

土づくりから堆肥づくり、そしてまた野菜へ。有機物が地域をつないでいく。

持続可能で、安全な有機栽培野菜をつくるために、たい肥づくりに力を入れています。お客さんの家庭から出た生ごみを回収し、庭師さんなどからもらう枝葉や落ち葉と一緒にたい肥化しています。生ごみや落ち葉は自然の力で土に戻ることができて、安心でおいしい野菜が再び育つ栄養になります。

◀ 農園も化学肥料を全く使わない有機農法で野菜を育てています。「雑草と野菜が一体化している様子が美しく見えてくる」と、富永さん。

SDGsとのつながり解説

2 飢餓をゼロに / 11 住み続けられるまちづくりを / 13 気候変動に具体的な対策を

身近な農地は、地産地消による輸送エネルギー削減により、CO2排出量削減が期待できます。生ごみや落ち葉などを清掃工場でエネルギーを使って燃やすのではなく、地域全体で土に戻していく仕組みがつくれたらいいですね。

みんなのSDGs

○ 家庭菜園で生ゴミ堆肥にトライしています

○ スーパーなどで地域の野菜が販売されていると、進んで購入するようにしている

ゲームとのつながりを探してみよう

関わる人それぞれの想いがつくるみんなの居場所

まいにちおいで子ども食堂

高島平で、月曜日を除く毎日、大人にも子どもにもお弁当を提供している「まいにちおいで子ども食堂」。
運営団体代表の武井重雄さんと、ボランティアとして活動に関わる、淑徳高校社会福祉部の皆さんにお話を聞きました。

▼ 盛り付けもボランティアスタッフの大事なお仕事。利用者さん用弁の ラッパーやお弁当箱につめることもあり。

平日にやっていること、毎日やることで助けになる。

武井：「まいにちおいで子ども食堂」は、子どもには無料で、大人には300円で手づくりのお弁当を提供しています。活動を応援する会員からの会費や寄付、助成金で運営しています。私が関わり始めた頃は1日20食程度でしたが、今は上限を50食として譲り合ってご利用いただいている状況です。利用者の方から、「平日やってくれて助かる」という声はたくさん聞きます。

様々な人にとっての憩いの場を支えたい

遊馬：食堂で食べることで、誰かと一緒にあたたかい食事の時間を過ごすことができるという独り暮らしの高齢の方。ひとり親で利用することで子どもとゆっくり過ごす時間が増えるという方もいます。
八尾：子ども食堂は、いろんな人の助け中支えがあって成り立っています。知らない人にもっと知ってもらいたい、もっと利用してもらいたいです。

NPO法人 キッズプラットフォーム
武井 重雄さん

子ども食堂はスタッフにとっても、貴重なコミュニケーションの場

武井：60代、70代のスタッフからすると高校生のみなさんはお孫さんみたいな感じで、お互いに世代間の貴重なコミュニケーションをとる場になっていると感じます。若い人と接してエネルギーをもらえるんです。

淑徳高校社会福祉部
青藤さん、遊馬さん、多田さん、柳さん、八尾さん

青藤：小さい子と同じ目線で一緒に遊べるのが、すごく楽しいです。

多田：居場所として、子ども同士の輪がもっと広がるといいなと思います。

柳：まいにちおいで子ども食堂が、初めてのボランティアです。継続的にお手伝いしていると、利用者さんの国りごとに関ずく時もあります。

SDGsとのつながり解説

1 貧困をなくそう / 3 すべての人に健康と福祉を / 17 パートナーシップで目標を達成しよう

栄養バランスが考えられた食生活を送ることは健康づくりにつながりますね。子ども食堂は、誰でも利用できる地域の居場所としても全国で広がっています。みんなで力を合わせて、誰もが健康で幸せな社会をつくりたいですね。

みんなのSDGs

○ 賞味期限にゆとりのあるものはフードドライブに持ち寄るようにしている

○ 商店街には人のつながりがあり、大切だと感じます

ゲームとのつながりを探してみよう

応援の力で個性がきらりと光る

無印良品板橋南町22と小茂根福祉園のコラボ

“人と人、人と地域がよりつながれる場所”をめざす無印良品板橋南町22と、知的障がいのある方のための福祉施設である小茂根福祉園。「個性」を活かした商品販売のため、コラボレーションしました。

▲ 小茂根福祉園 梅田優さん(右)と無印良品 板橋南町22店長 大野光貴さん(右)

地域の人や思いを応援し、それを実現する力になる存在でありたい

大賀：板橋南町22は、地域のみなさんの生活に寄り添うことをコンセプトとしています。今後も地域の方々が望むことを応援し、実現する力になっていきたいと思います。今回のコラボも、小茂根福祉園の活動をより広く、様々な人に知っていただくきっかけになったら嬉しいです。

まちに飛び出て、たくさんの人に活動を知ってもらうきっかけをつくりたい

坂田：小茂根福祉園の利用者さんが、板橋南町22の周年祭のロゴを担当しました。アートの展示と福祉園で企画・製造している「KOMONEST」ブランドの商品販売も行いました。KOMONESTでは、地域や企業などいろんな人に利用者さんの背景を伝えるコミュニケーションツールとして商品やアート作品を展開しており、手に取りやすい商品力のあるものづくりを大切にしています。商品をきっかけに、小茂根福祉園の活動について調べたり誰かに伝えたり、ちょっとしたことで良いので、輪が広がっていったら嬉しいです。

◀ 周年祭のロゴ。板橋南町22にしかない商品が揃かれる。

▲ 無印良品の商品をアレンジした商品も

一人ひとりの個性をみていく社会になってほしい

大賀：小茂根福祉園さんのキャッチフレーズ「Yes I'm here／私はここにいますよ」っていいですよね。
坂田：地域の一員として利用者さんが暮らしていけるように、そしていつかは巣立っていけるようにという思いが込められています。障がいの有無などは関係なく、一人の人としてフラットに見ていく視点が増えるといいなと思います。
大賀：板橋南町22を、一人ひとりの表現をサポートする拠点にしていきたいです。

▶ 商品と一緒に作者一人ひとりの写真とお名前、性格や得意なことを紹介。

SDGsとのつながり解説

8 働きがいも経済成長も / 10 人や国の不平等をなくそう / 12 つくる責任 つかう責任

生まれた場所や性別、肌の色やその人の特性などに関係なく、一人ひとりが暮らしやすい、働きやすいまちをつくっていきたいですね。板橋南町22では区と連携して、服、食品、資源の回収も実施。ものが循環するしくみもあることが大事ですね。

みんなのSDGs

○ できるだけ思い込みをなくして人と接するように努力しています

○ 板橋は「バリアフリートイレ」の設置が進んでいる

ゲームとのつながりを探してみよう

いたばしのまちのみんなのSDGs

板橋区のみなさんに、まちで見つけたSDGsについて聞いてみました！中面のボードゲームのマスともつながる取組もたくさん！ゲームとのつながりを探してみよう！

食べ物を無駄にしない

食品ロスを減らすため、すぐ食べるものは賞味期限が短いものを買うようにしています

生き物の多様性を体感する環境教育

こども動物クラブで動物の世話やエサづくりを実際に体験すると、いろんな動物のことをもっと知りたいと思いました

小学校で、いろんな生き物のことをクラスの友達と調べて、一緒に暮らすビオトープをつくりました

いつまでも美しい石神井川桜並木のために

毎年美しい姿を見せてくれる桜ですが、実は老朽化が進んでいます
桜並木を後世に残すために、今を知って何ができるか考えていきたい

地元企業とのコラボレーション

板橋区とお菓子をつくっている「湖池屋」が協力して、「防災スナック」などを備蓄品に取り入れた災害時への備えを広めている

限られた資源を循環させるまちづくり

2024年4月から、これまで可燃ごみとして収集されていたプラスチックが資源として回収されるよ

板橋清掃工場で発生した余熱のエネルギーを高島平温水プールと熱帯環境植物園に再利用していて、すごいと思う

誰もが暮らしやすいまちづくり

ごみ出しの案内が、絵や「やさしい日本語」で外国の方でもかかりやすい表現がされていました

緑を増やして気候変動対策

保育園の窓は植物でできた「緑のカーテン」でぎっしり！家でもゴーヤを育ててみたい